

清水エスパルスでリユースカップ（100円デポジット）！？ を考える

時 2006年8月5日（土）13時30分～

所 アイセル21（静岡市中央公民館）4階43集会室

ゲスト スペース・ふう（山梨県・サッカーJ2のヴァンフォーレ甲府 小瀬スポーツ公園で実績）

参加希望者は壺阪までご連絡ください054-257-3177 mirai2@bj.mbn.or.jp

<スペース・ふうのHPより>

イベントでのゴミを出さないために食器レンタルをおすすめします。

スペースふうでは食器を貸し出し、使い捨て容器を廃棄処分することによる環境破壊を全国のイベントからなくすことを目的としています。

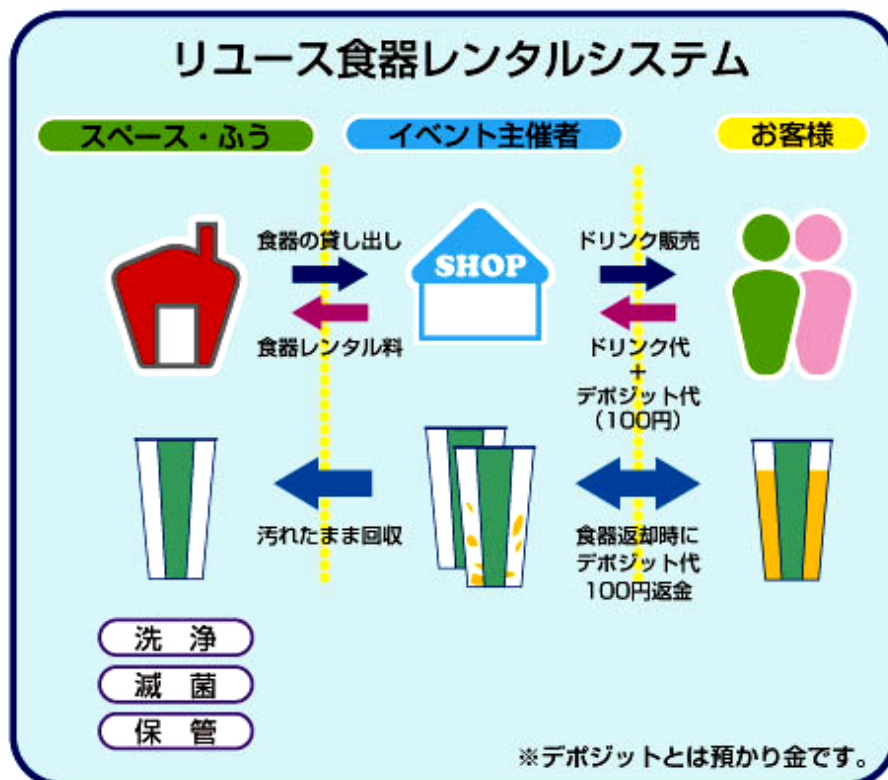
現在全国各地で開催されているイベントで、飲食に関して使用されている食器はほとんどが使い捨ての容器です。さらにその大部分は廃棄処分時に有毒ガスなどの心配のある発砲スチロール容器です。

借りる・使う・返す！洗浄不要で簡単便利全国で唯一のリユースシステム

お貸しした食器はイベント終了後、洗浄などの作業が一切必要ありません。お届けした際のコンテナに収納し返却するだけ・・・だからイベント終了後の作業が軽減されるメリットもあるわけです。

洗浄を独自に行い使いまわすことは衛生上おやめ下さい。

洗浄してまわす場合は、食器を買い取ってお使いいただきます。（85円）



<平成 16 年度リユースカップ等の実施利用に関する検討調査報告書> より
財団法人 地球・人間環境フォーラム

リユースカップ導入スタジアムの概要 (2005 年 2 月現在)

名 称	ビッグアイ (大分)	小瀬スポーツ 公園陸上競技場 (甲府)	日産スタジアム (横浜)	瑞穂陸上競技場 (名古屋)
収容人員	4 万人	1 万 2,000 人	7 万 2,000 人	2 万 7,000 人
入場者 (1 試合平均)	21,186 人	6,309 人	29,531 人	11,959 人
導入時期	2003 年 3 月	2004 年 4 月	2004 年 8 月	2004 年 9 月
対象飲料	ビール、ソフトドリンク			
デポジット	あり (100 円)	あり (100 円)	なし	なし
実施試合数 (2004 年)	17 試合	21 試合	6 試合	4 試合
使用個数 (2004 年のべ)	69,322	35,050	76,548	21,965
(1 試合平均)	4,078	1,669	12,758	5,491
回収率 (2004 年平均)	85.7%	82.6%	96.3%	93.5%

(4) デポジット及び回収システム (大分 ビッグアイ)

飲料販売時に 100 円のデポジットを売店レジにて加算・徴収し、飲み終わった後カップを回収所へ持ち込むと 100 円を払い戻すという方式である。デポジット金の全体的な管理については、場内の売店事業の総括管理を担っており、かつ売店業務も行っている(株)エムサービスが実施している。デポジット返金用の 100 円硬貨として、100 万円程度 1 試合につき準備が必要となるため、試合ごとに「銀行からの出金 (両替) 各回収所への分配、残金照合」といった作業を行っている。

回収所でのデポジットの返金とつり銭の管理は、各回収所 1 人で担当している。回収所の設置数は予想される来場者数によって調整しているが、平均的な数としては 6 ヶ所となっている。人員体制としては、各回収所の回収員のほかに全体統括者 1 人と巡回監督員 1 人を配置している。回収所では、飲み残しをバケツに捨てた後に使用済みカップをラックに収納、その日のうちにデポジット金と回収カップ数の確認・精算作業を終えた後、提携の洗浄施設へ当日 (ナイトゲーム時は翌日の場合もある) 搬入される。

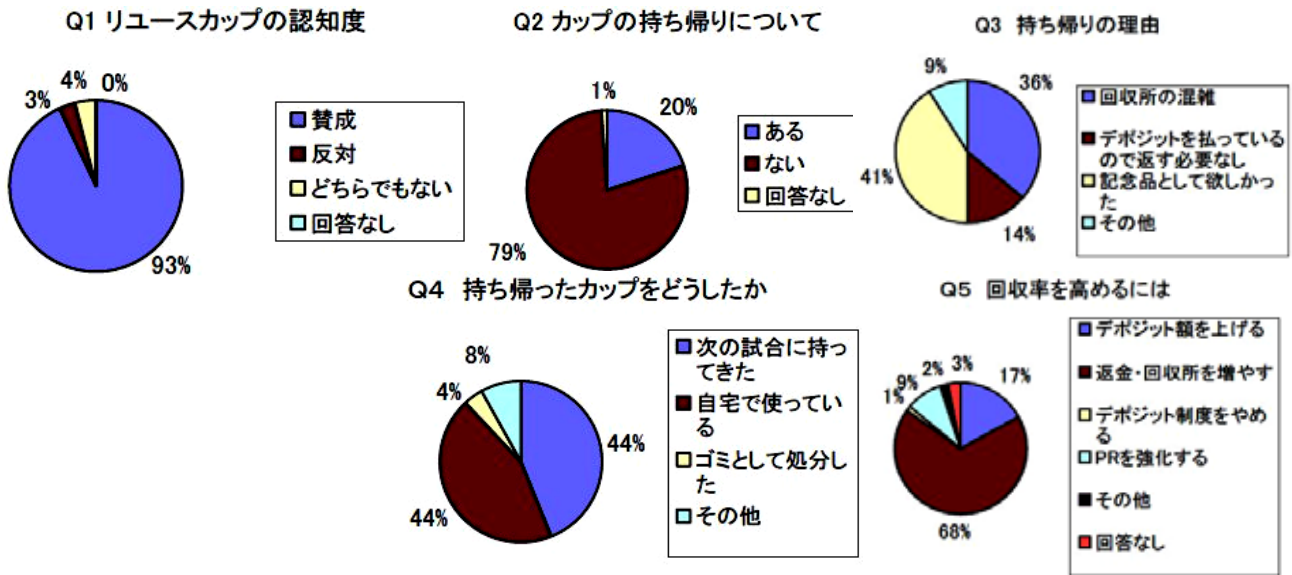
(5) 洗浄・保管方法 (大分 ビッグアイ)

リユースカップの洗浄は、2003 年度に引き続き地元の弁当業者であるヤマウチ調理食品 (本社・大分市) が担当した。工程としては、「下洗い」「食器自動洗浄機 (3 槽式) による洗浄 (温度 85 、時間 1 分 40 秒)」「温蔵庫による乾燥 (温度 80 、時間 15 分)」「梱包前のチェック (目視) 」となっており、地元保健所の指導のもと食品衛生法に準じた方法を採用している。また、ビッグアイ場内の売店へ納品する際にも、個数の確認とともに汚れや破損などの目視チェックを行っている。

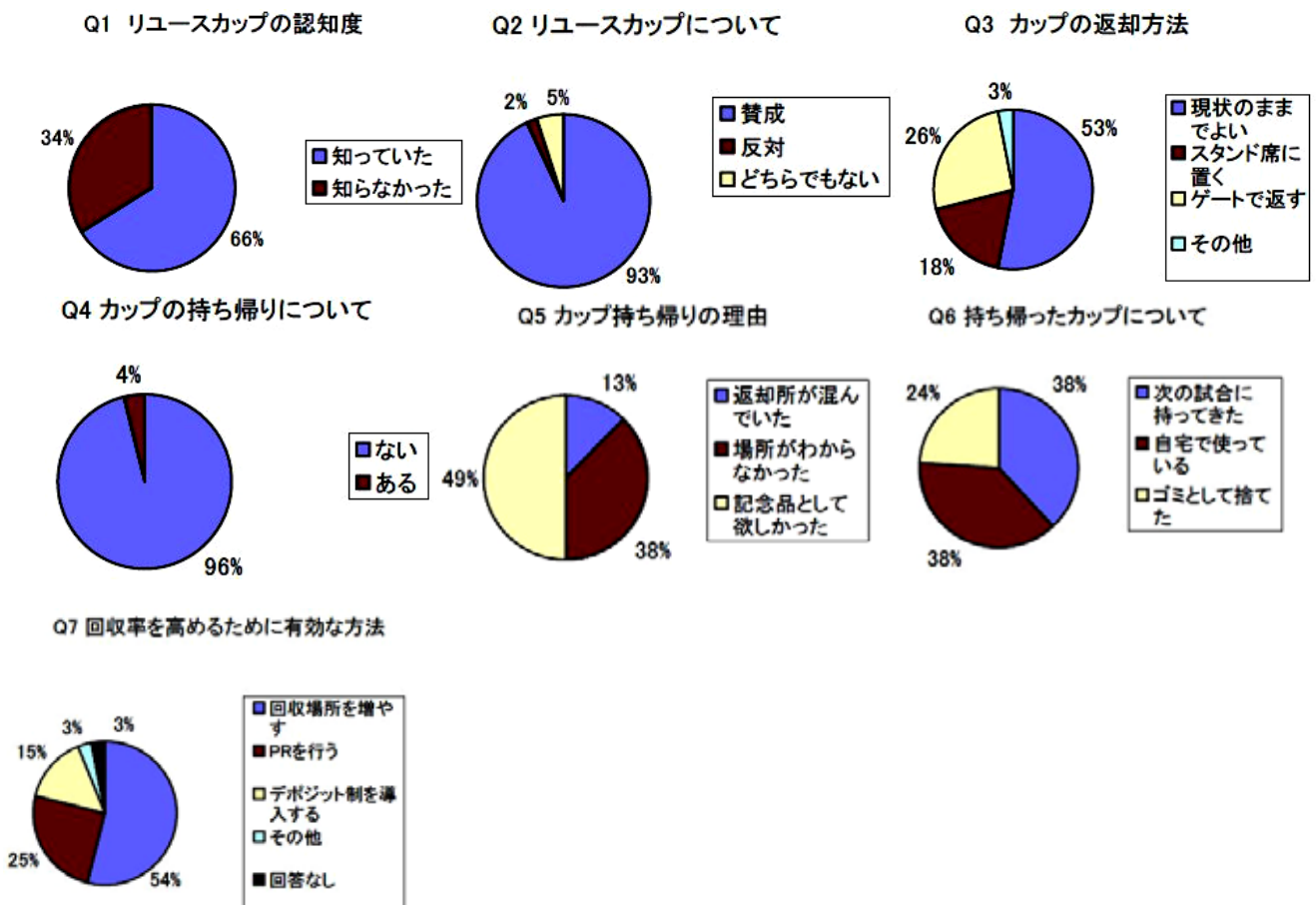
保管については、ビニール袋に梱包後ラックに収納され、競技場内の常温倉庫で保管している。ただし夏期 (6~9 月) は衛生管理を徹底するために、氷卸業者である (株) 九冷 (本社・大分市) で冷蔵保管されている。

2003 年度当初、常温保管で黒カビの発生があったため、使用前の目視チェックで見つかったため消費者の手に渡ることはなかった

11月20日（鹿島アントラーズ戦）の来場者に対してアンケート調査を行った。有効回答数は237
大分 ビックアイ



11月23日（アルビレックス新潟戦）にてアンケート調査を行った。有効回答数は209
日産スタジアム 横浜



2002年8月23日から8月31日（現地活動時間）まで、ドイツへ視察
（エバ-カウス研究会）

リユースカップ

ドイツでは、リユースカップが習慣化している、しかもガラス容器が多いと前に書いたが、サッカー場でこれをやると問題になる。観客は大変エキサイトし、時として、ガラスの容器は凶器にもなりうるからだ。そこで、サッカー場では、プラスチックの容器を採用するところが増えてきている。

サッカー場でのリユースカップの実情をお聞きしようと、ケルンの現在工事中のサッカー場を经营管理する Rhein-Energie-Stadion 社を訪問し、経営・開催マネージャーのホフマン氏にお会いした。このスタジアムの規模は46000シートで、売店やショップは25個あるそうだ。

10年ほど前から各サッカー場では、プラスチックのリユースカップの研究してきたそうだ。

ドイツのサッカーファンは大変エキサイトすることがあるので、

固くないもの

割れて破片が営利にならないもの

底深く（厚く）しない

という3点に注意して容器を試みたそうだ。

企業の方から、PEやPCなど、いろんな提供があったが、ここでは最終的にPPを採用した。透明でないが、傷がつけにくく、丈夫である。

現在、この容器はビールとソフトドリンクのみで、コーヒーはまだ使い捨ての紙かプラスチックのカップである。

なお、そこで販売される飲料の容器はリユースで0.3リットル

水 1.8ユーロ

ソフトドリンク 2.1ユーロ

ビール 2.2ユーロ

それに対して、容器のデポジットは1ユーロ。

このリユースカップを採用する以前は、使い捨ての紙かプラスチックのコップだったそうだが、観客が飲食し終わったものをゴミ箱に捨てないので、試合が終わった後、掃除に費やす手間とコストは馬鹿にできなかったそうだ。しかし、このようなリユースカップの採用はそれを節約できて、大変歓迎しているそうだ。

なお、ホフマン氏によると、この容器の回収率は98～99%だそうだ。帰ってこない容器は、観客が記念に持って帰っているようだ。